

行きはよいよい帰りは怖い
それでも、頑張っ上ります

小規模多機能ホーム丸子の里 和はは 曾根聡
杉浦有香

1

施設紹介

社会福祉法人静和会の中で令和元年に開設された
小規模多機能ホーム 丸子の里『和はは』



静和会 理念「すべての人に笑顔を」

小規模多機能ホームは「デイ・訪問・泊まり」を組み合わせ
その方にあったサービスを考える。

『和はは』は登録人数29名/1日のデイに通える利用者人数18名/泊り7名。
介護度でひと月の利用料金(単位数)が決まっている。

2

和ははの特徴

- ・記録を電子化にし、ご家族様に記録を見てもらえる。
ご家族がコメントできる。
- ・3階の児童クラブと交流がある
- ・所長の保護犬マロちゃんと触れ合う
事が出来る



3

ご利用者紹介

- ・認知症でデイサービスに拒否があった方(介護2)
毎日の訪問で職員に慣れ、デイ、泊まりを利用できるようになった
- ・ご自宅で過ごす時間を大切にされている犬好きの方(介護5)
車椅子になりご自宅でお風呂に入れなくなった為、お風呂
とマロちゃんを楽しみにデイを週3回利用、リハビリPTに指導を受け、
和はは職員が週3回自宅訪問しリハビリを行っている
- ・生まれつき耳が聞こえず、物忘れが出てきた方(介護1)
週3回デイ利用、デイのない日は食事の提供に1日2回訪問に入っている

4

演題

寝室が2階にある方への支援方法

A様 60代後半 男性 介護3
2023年11月より利用開始 脳梗塞と認知症あり
定年後の生活が始まりしばらくたった頃脳梗塞になる

病院の相談員から退院時に老健を勧められたが、A様の気持ちを奥様が尊重され和ははの利用となる



5

課題

- ・ 自宅の1階にお風呂、2階にリビングと寝室があり、歩行状態が悪くても2階に上がる必要がある
- ・ 奥様と2人暮らし 些細なことで奥様に怒ることがある
- ・ 奥様の仕事(週3回)の終わりが21:00になる
- ・ 脳梗塞の入院中に認知が進み、1人で留守番ができない
- ・ 左足を引きずるように歩き、歩行に介助や手すりが必要
→ 階段の足の使い方が出来ず危ない「行きはよいよい帰りはこわい」
- ・ 手すりを単位数ギリギリまでレンタルしても足りない箇所がある

6

課題に対し行ったこと

- ・ 迎え時職員が2階に行き、見守り介助で1階へ安全に降りる
- ・ 就寝時間が遅く朝起きれない為、迎えの時間を遅くする
- ・ 21:30の奥様の迎えを待ちきれない為、夜食の提供や好きなアニメを観ていただく
- ・ 自宅で尻もちをついたときなどは、緊急で訪問に入る

7

コロナで20日間入院

退院直後は和ははで歩行器を使いトイレに行っていた。
自宅でも手すりに掴まり歩いてトイレに行っていた。

2024年2月ご夫婦でコロナにかかり、A様は20日間の入院となる。
この間に嚥下機能低下、体重減少あり。
自宅、和ははとも車椅子を利用することが多くなるも、
外出時の玄関から門扉までのアプローチは手すりに掴まり歩行していた。

8

歩行訓練開始

退院後は下肢筋力の低下を防ぐ必要があります。訪問リハビリを利用するには単位数が足りない為、和ははで平行棒での歩行訓練を始める。

リハビリへの抵抗や、車椅子から椅子への移動を面倒くさがってしまう事があり、上手くリハビリに誘えない時があった。

まず、平行棒への誘い方の変更を行った。「リハビリ」という言葉は使わず、トイレ誘導後に平行棒まで車椅子で行く事にした。

外を見ることが好きなことから、窓まで行く為に歩く必要があると話をした。



9

PTに相談

法人内のデイサービスのPTに相談し、リハビリメニューを考えてもらった。

階段を上る為に必要な筋肉「太もも」「ふくらはぎ」「お尻」

1. 平行棒を掴み頭を下げながら立ち上がる 5回
2. 平行棒に掴まり立ったままかかとの上げ下ろし 10回
3. 立ったまま腿上げ 10回
4. 平行棒歩行(平行棒内に踏み台を置く)
 - ・ 踏み台昇降
 - ① 踏み台の上で両足揃えて立つ
 - ② 踏み台の後ろに降りる
 - ①②を2回繰り返し

10

介護3→介護4

電子記録を見ている奥様から、リハビリ後の歩行状態や自宅での様子をコメントで返信してもらい、リハビリの大切さを実感することができた。



午前、午後とリハビリを行ったが、11月の更新で介護4となってしまう。

奥様は介護度が上がったことに落胆されたが住宅改修がリセットされたことで足りない箇所に手すりをつけることができた。

11

ヘルニア発症

2025 2月 足の痛みがありMRIを撮るとヘルニアと発覚。

先生に動かない事も良くないと言われ、少しずつリハビリを行う。

車椅子でリビングを移動することが多くなった為、追加の住宅改修でリビング扉の開閉の向きを変え、車椅子の出入りがスムーズになる様にする。

歩く距離を少なくし階段昇降の体力を温存する為、外出する方法を歩きからスロープを使用し、車椅子で移動する事にする。

12

リハビリ停滞期へ

リハビリ停滞期になったが、これからも2階の寝室へ歩いて上らなければならない。
調子の良い時にリハビリを行い、少しでも長くご自宅の生活が続けられるように、奥様、和はは職員、福祉用具、PT 皆んなで知恵を出し合い支援方法を考えていく。

今後の課題

A様を含めギリギリの状態でご自宅を希望される方が「和はは」をご利用されている。ご本人ご家族の気持ちに寄り添いながら一人一人の生活に必要なケアを考え支援していきたい。

13

「全てのの人に笑顔を」を目指して



14